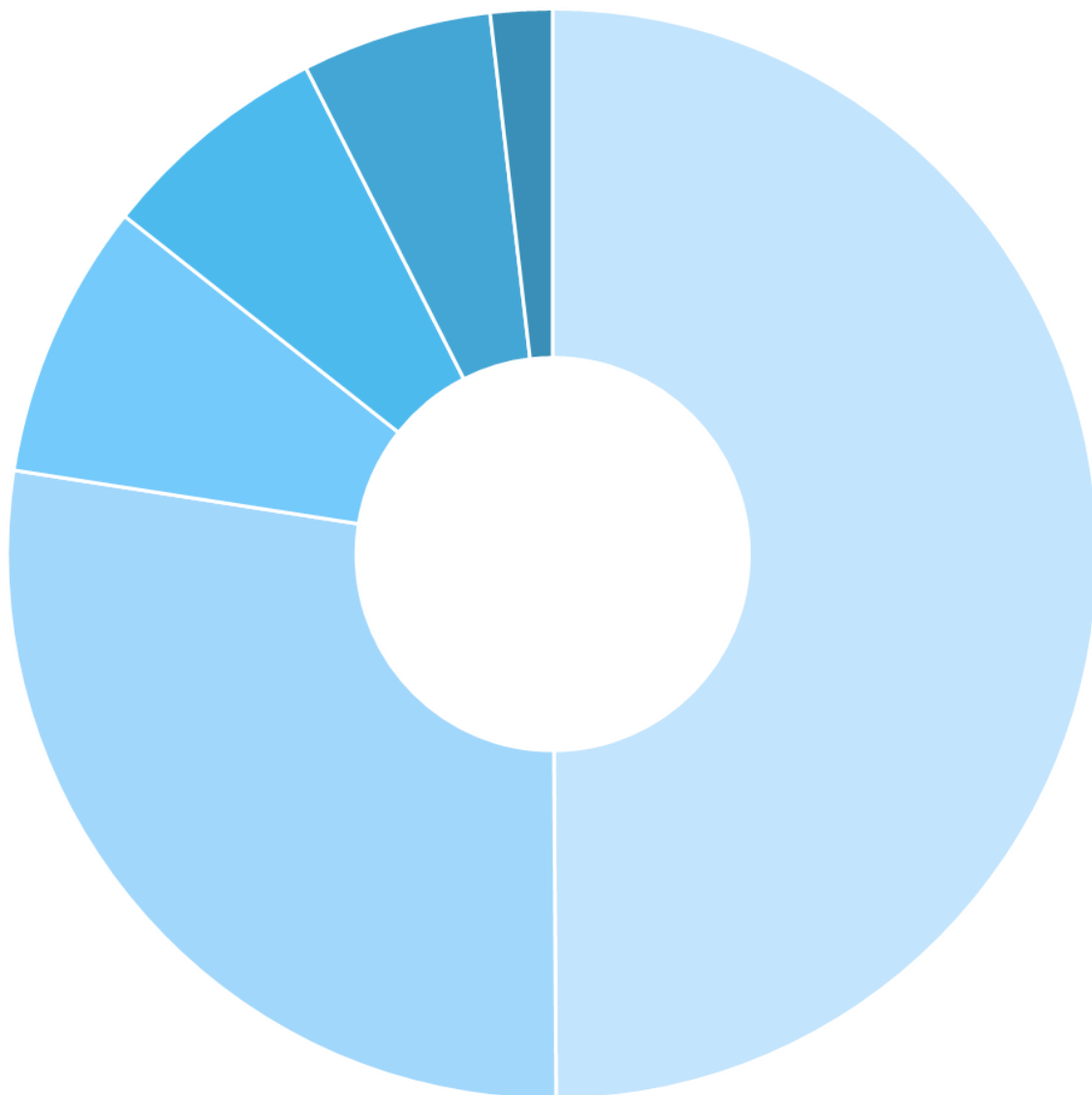


グラフで見る統計あつぎ — 令和4年版 —

令和4年版統計あつぎをもとに、
グラフにして取りまとめました。

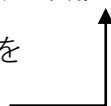


この資料の見方

(例) **1 行政区画・土地・気象**

■都市計画区域の割合及び地目別土地利用状況(5)

統計あつぎ4頁「5 地目別土地利用状況」を
基に作成しています。



目次

あつぎの概要

行政区画・土地・気象

- 都市計画区域の割合及び地目別土地利用状況・・・3
- 月別平均気温と降雨量（令和4年中）・・・3

人口

- 人口と世帯数の推移・・・4
- 外国人住民登録者数の推移等・・・4
- 人口動態（社会動態）の年次別推移・・・5
- 人口動態（社会動態）の月別推移（令和4年中）・・・5
- 人口動態（自然動態）の年次別推移・・・6
- 人口動態（自然動態）の月別推移（令和4年中）・・・6
- 年齢別各歳人口の推移（県年齢別人口統計調査）・・・7

事業所

- 事業所数及び従業者数の推移・・・8
- 従業者規模別事業所数・・・8
- 産業大分類別事業所数（平成28年6月1日現在）・・・9
- 産業大分類別従業者数規模別事業所数（市内シェア上位5分類）・・・9

工業

- 従業者規模別事業所数の推移・・・10
- 従業者規模別従業者数の推移・・・10

商業・観光・金融

- 観光客数及び消費額・・・11

農林業

- 地区別農業経営体数・・・12

交通・通信

- 市内鉄道利用状況の推移(本厚木駅・愛甲石田駅)・・・12
- 高速道路インターチェンジ利用状況の推移・・・13

治安・災害

- 救急業務出動状況の推移・・・14

特集 5年ごとに見る統計あつぎ(過去からの比較)

- 気象、一般会計歳入歳出決算・・・15
- 幼稚園の幼児数、小中学校児童数、公民館・児童館利用人数・・・16
- 交通事故発生件数、刑法犯罪発生状況・・・17

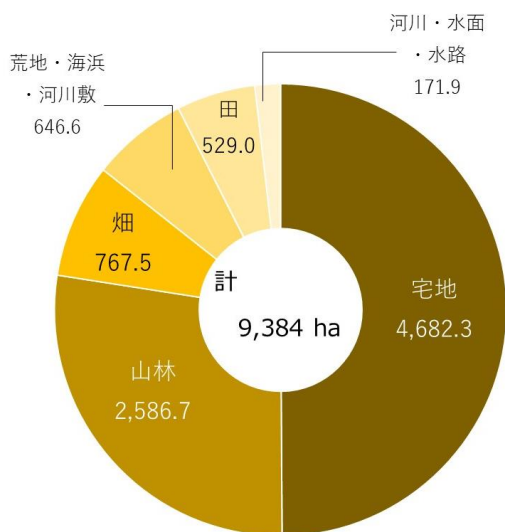
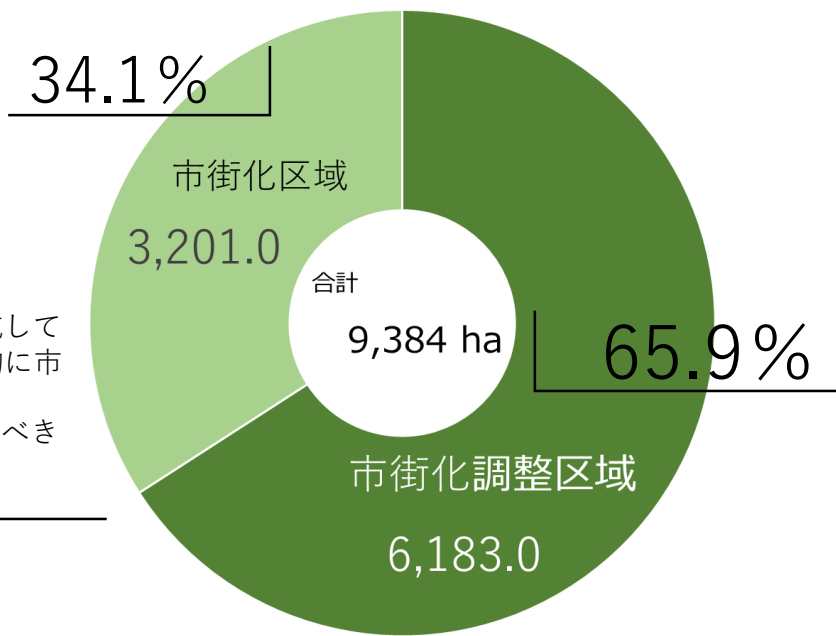
1 行政区画・土地・気象

■都市計画区域の割合及び地目別土地利用状況(5)

都市計画区域

市街化区域とは、すでに市街地を形成している区域及びおおむね10年以内に優先的に市街化を進めるべき区域を指します。

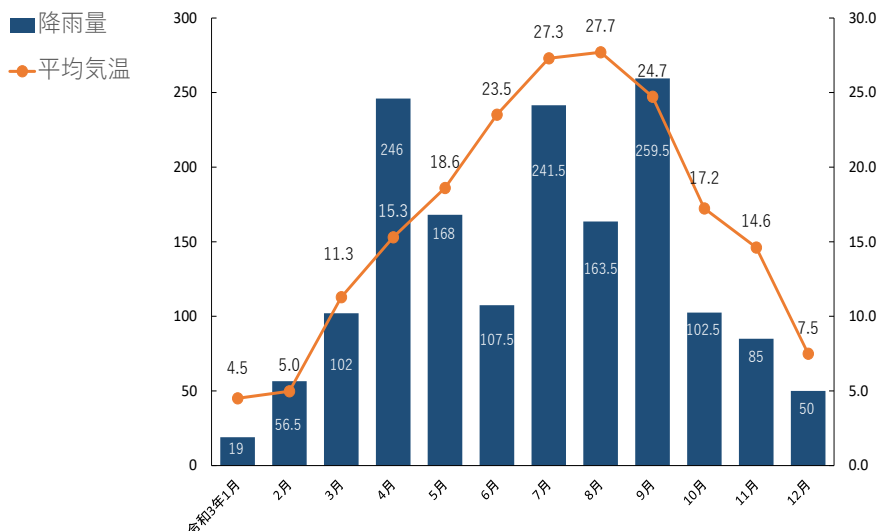
市街化調整区域とは、市街化を抑制すべき区域を指します。



地目別土地利用状況

市全体の面積に対して**宅地が約5割**を占めています。

■月別平均気温と降雨量(令和4年中)(8)



最高気温を記録したのは、6月29日及び7月31日の35.8°C、最低気温を記録したのは、2月6日の-3.5°C。

令和4年度は令和3年度に対し、降雨量が少なく、過去5年間の平均値を下回りました。

2 人口

■人口と世帯数の推移(9)

平成29年をピークに人口が減少傾向となりましたが、令和3・4年は増加しました。

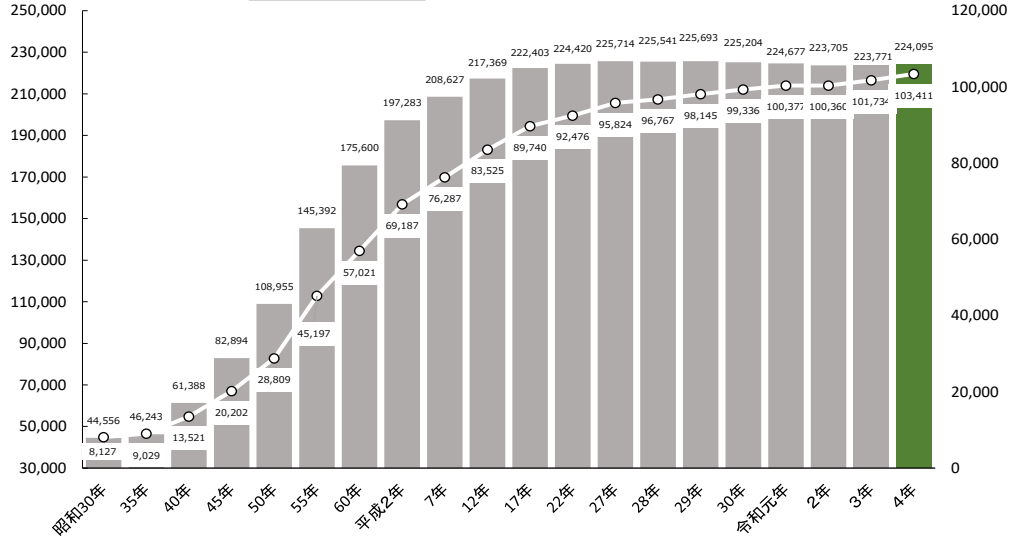
昭和30年～令和4年

令和4年10月1日現在

■人口(総数)

○世帯数

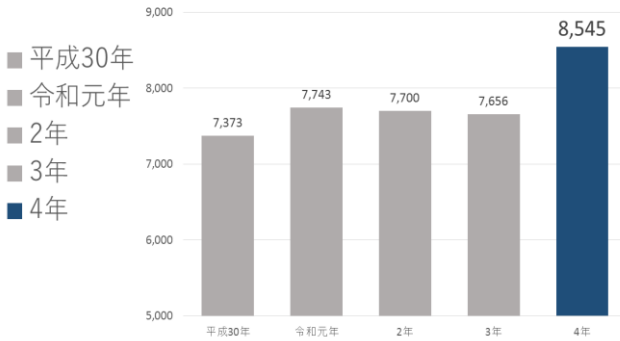
224,095人



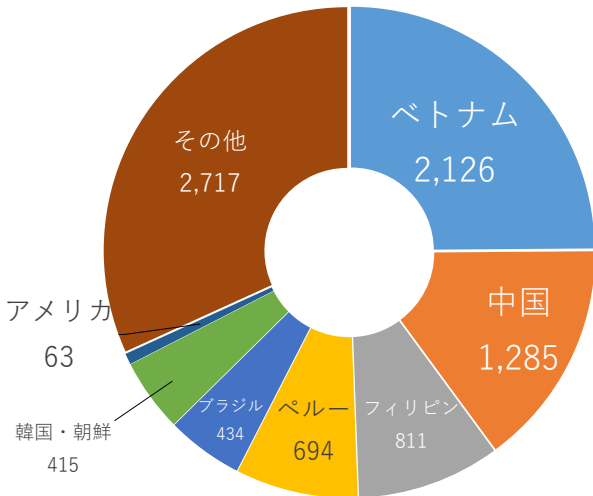
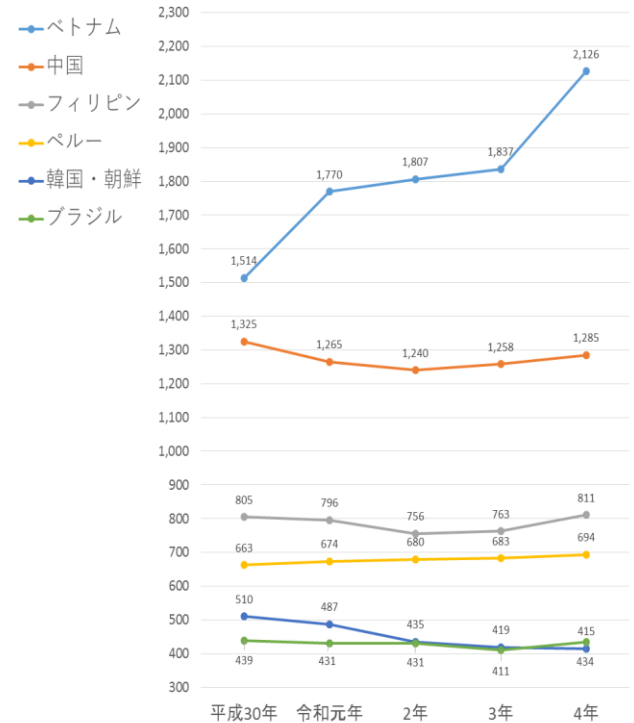
■外国人住民登録者数の推移等(11)

外国人住民登録者数の年次推移

令和2・3年の減少から一転し、
令和4年は大幅増加



外国人住民登録者数国籍別の推移



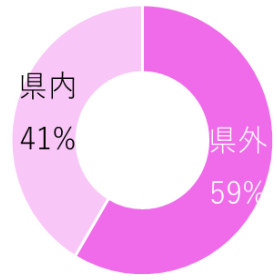
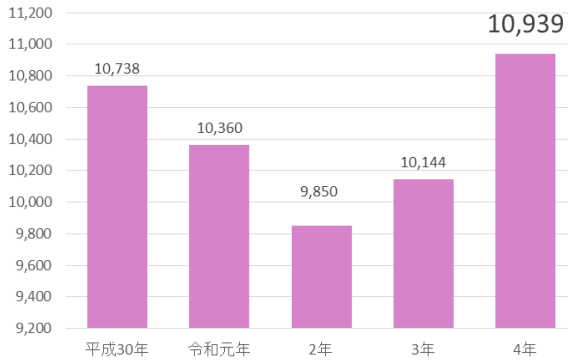
特に、ベトナム人が顕著に増加しています。

■人口動態(社会動態)の年次別推移(17)

転入者数の推移

令和4年中の転入者数の県内外割合

■ 転入

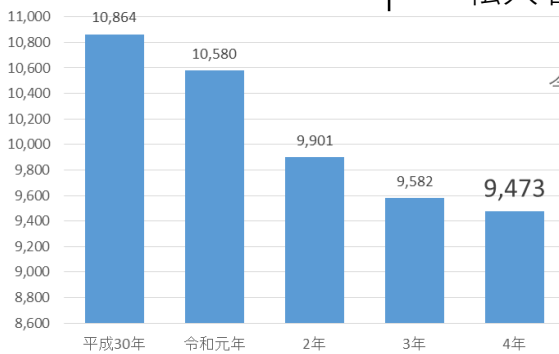


転入者が転出者を上回る**転入超過**となりました。

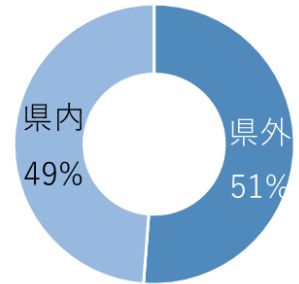
転出者数の推移

転入者数 - 転出者数 = **プラス1,466人**

■ 転出

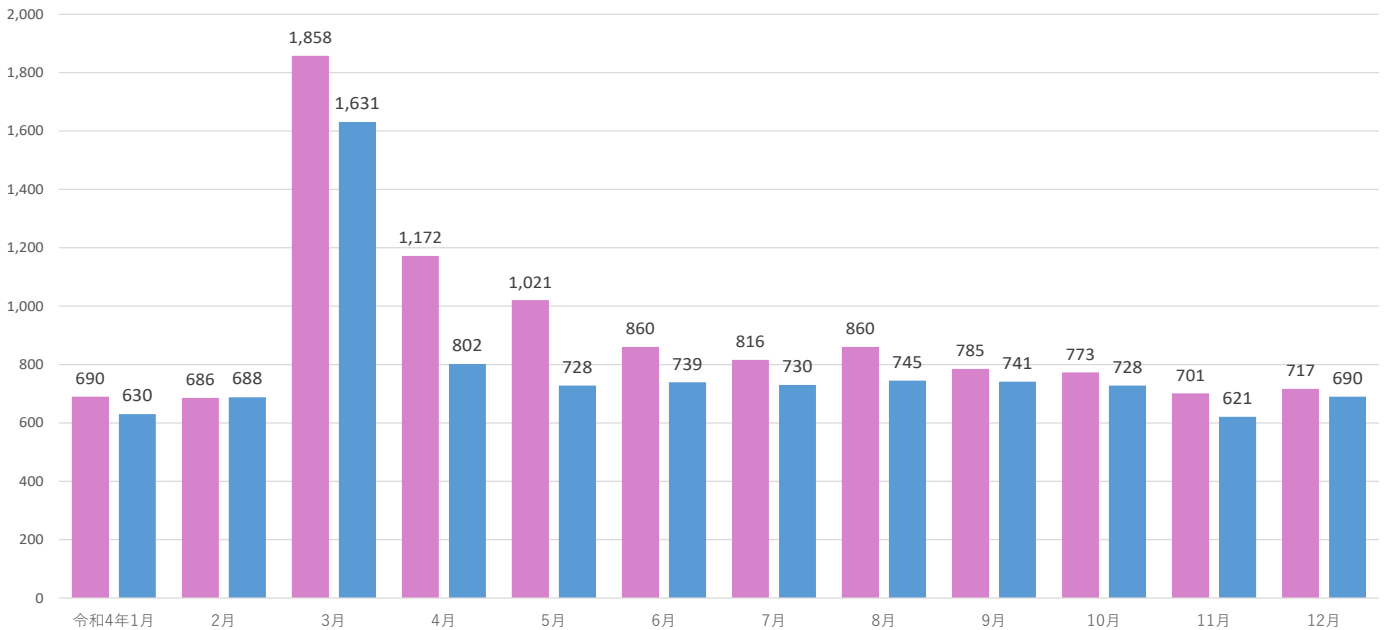


令和4年中の転出者数の県内外割合



■人口動態(社会動態)の月別推移(令和4年中)(17)

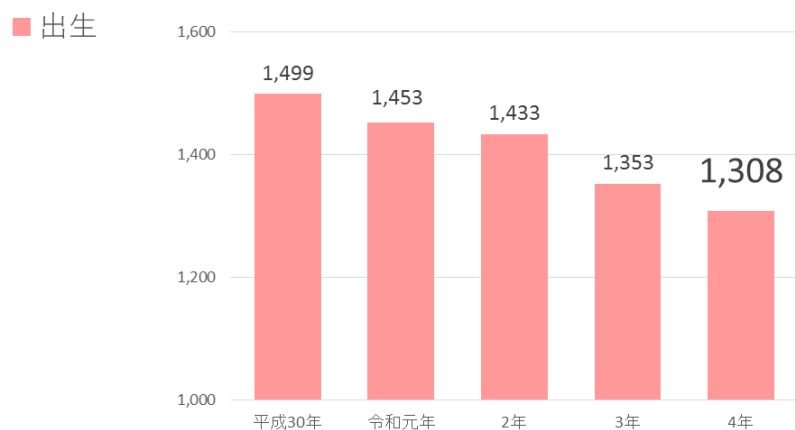
4年中の月別転入者数及び転出者数の推移 ■ 転入 ■ 転出



一番異動数が多い3月を除いても、毎月平均1,538人の人口異動があります。

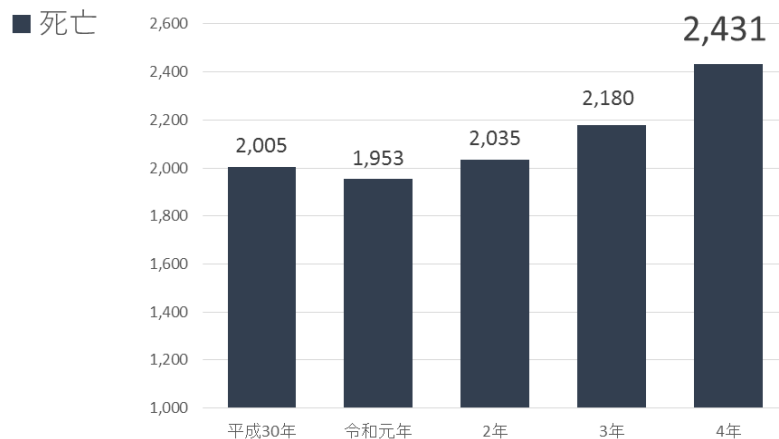
■人口動態(自然動態)の年次別推移(17)

出生者数の推移



出生者数より死亡者数が上回る**死亡超過**となっています。

死亡者数の推移

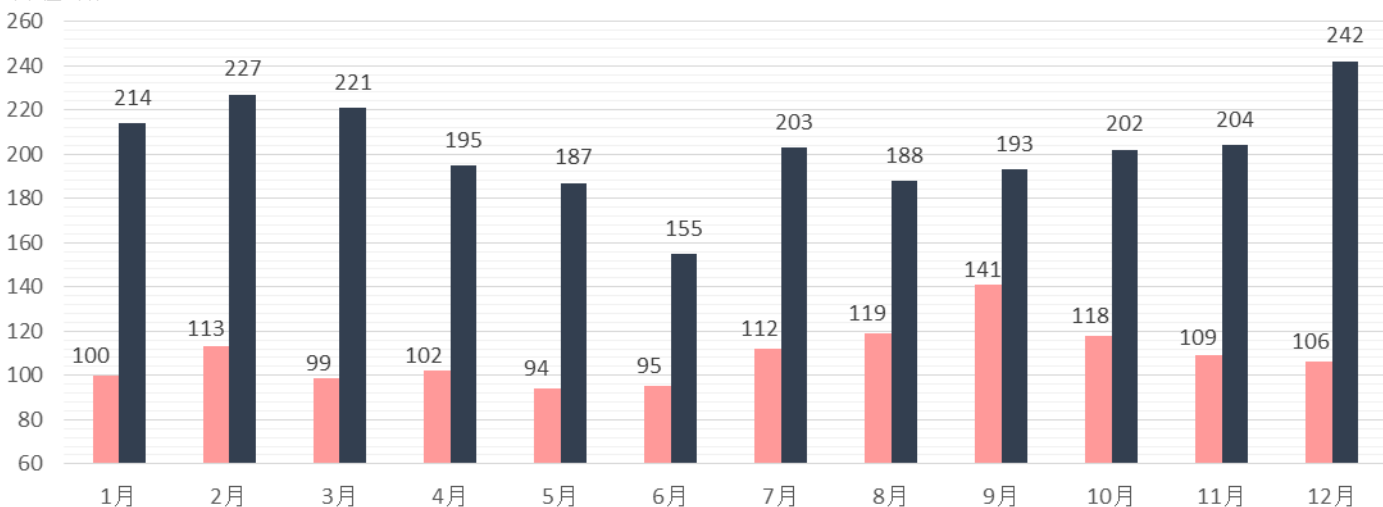


$$\text{出生者数} - \text{死亡者数} = \Delta 1,123 \text{人}$$

■人口動態(自然動態)の月別推移(令和4年中)(17)

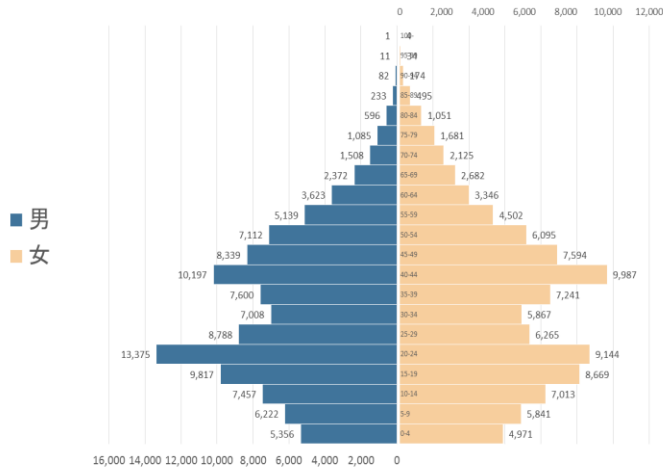
人口動態(自然動態)の月別推移(令和4年中) ■出生 ■死亡

(単位 件)

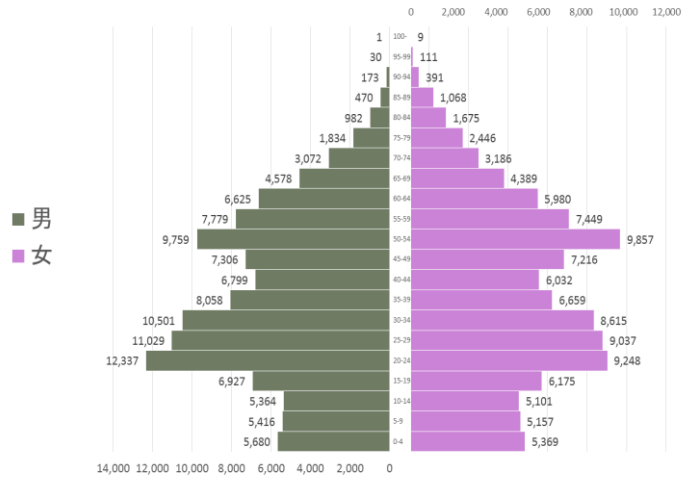


■年齢別各歳別人口の推移(県年齢別人口統計調査)(19)

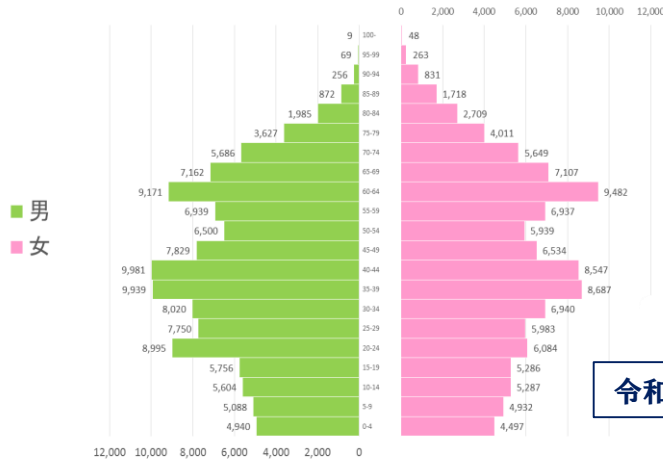
平成4年1月1日現在



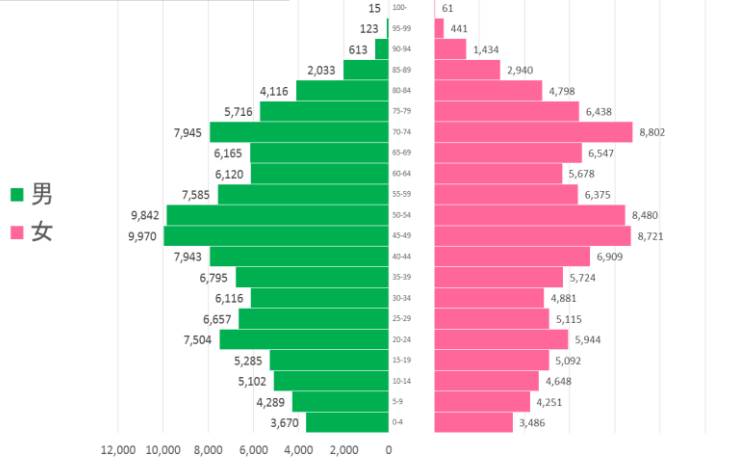
平成14年1月1日現在



平成24年1月1日現在



令和4年1月1日現在

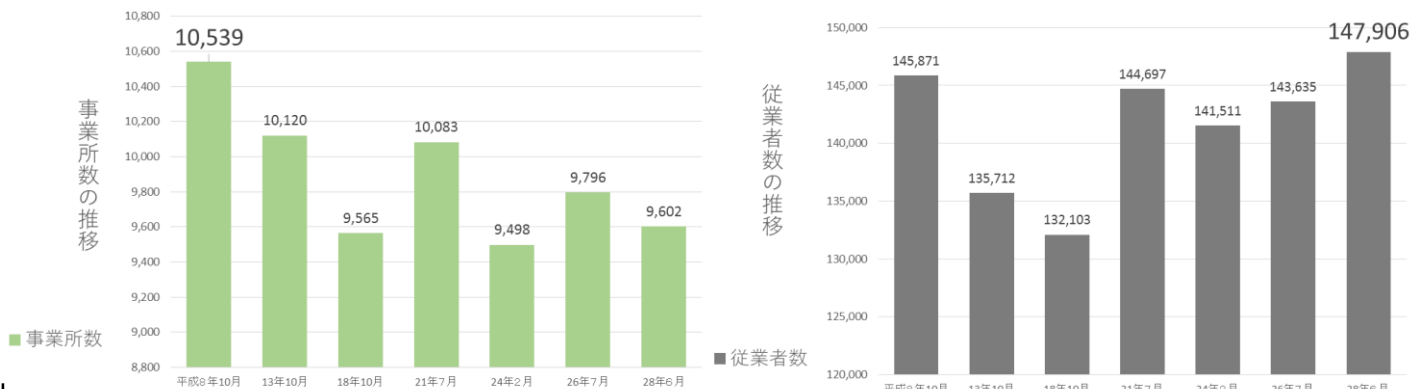


各年で最も高い割合を占めている年代は、20年前の**平成14年**では**20-24歳**、**令和4年**では**45-49歳**です。

グラフの形状がピラミッド型からつぼ型に変化していることがわかります。

3 事業所

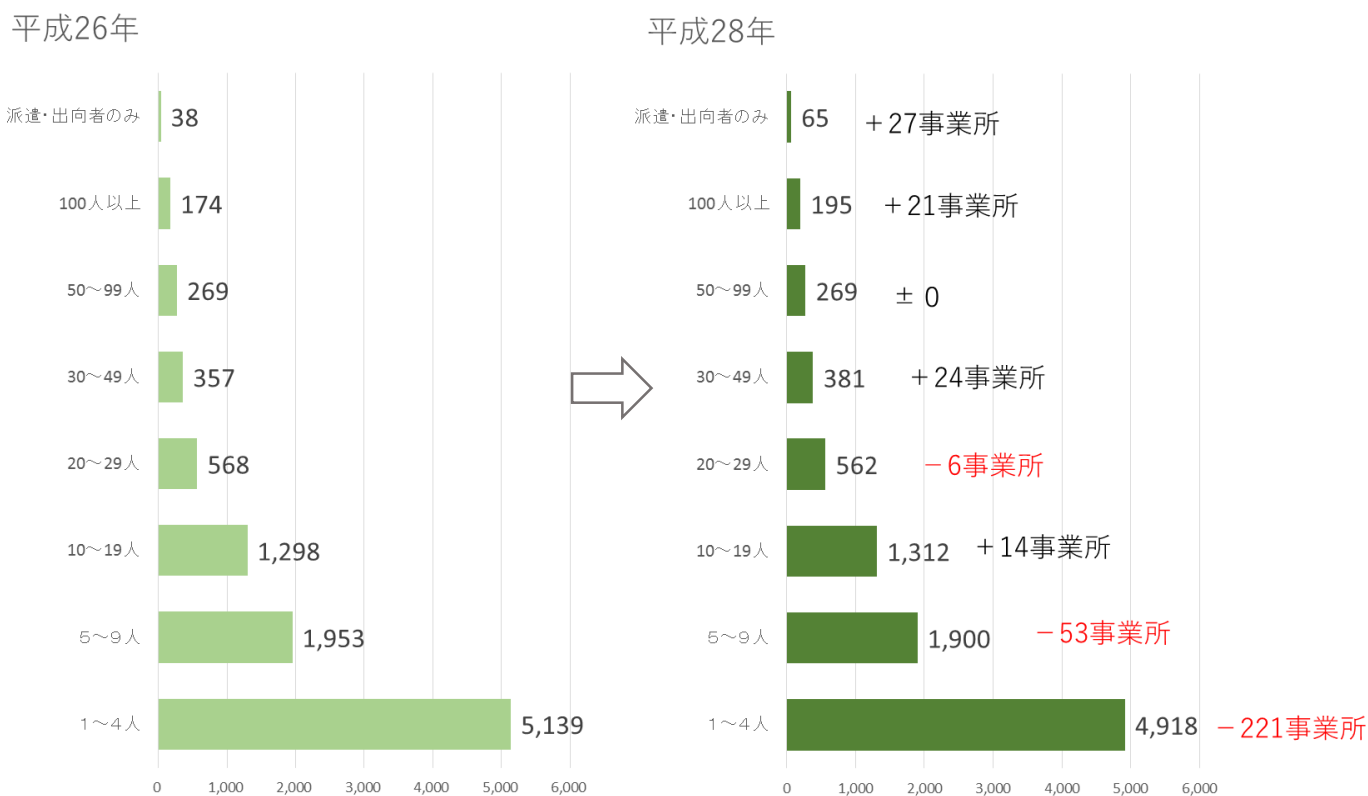
■事業所数及び従業者数の推移(29)



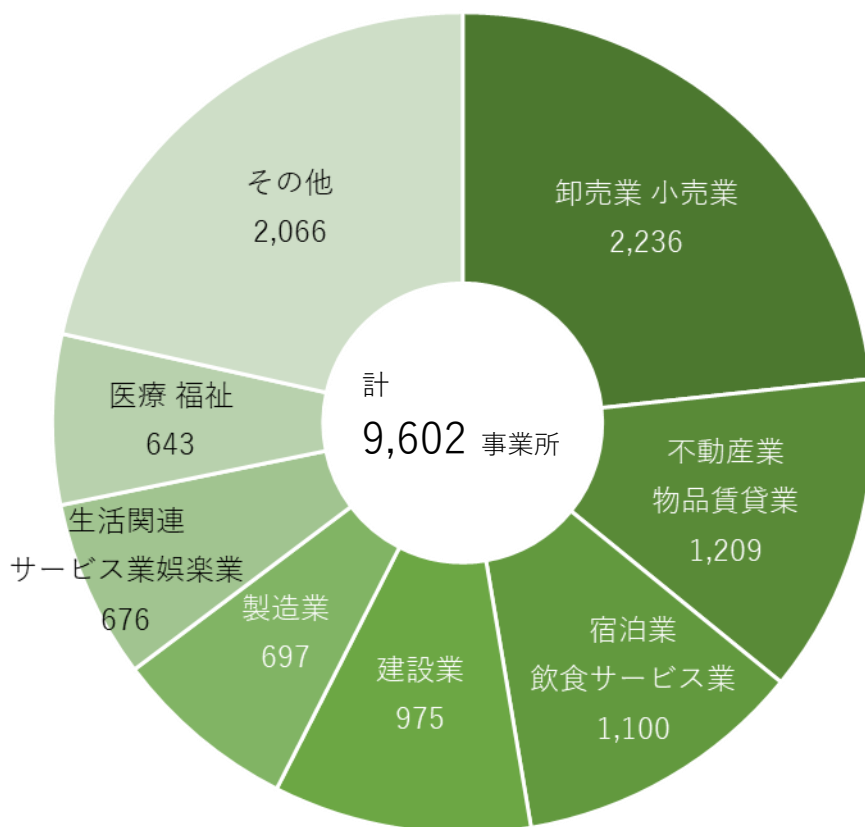
平成26年から事業所数が減少している一方で、従業者数が増加しています。

下記グラフも併せて見ると、**従業者規模の大きい事業所**が増加していることがわかります。

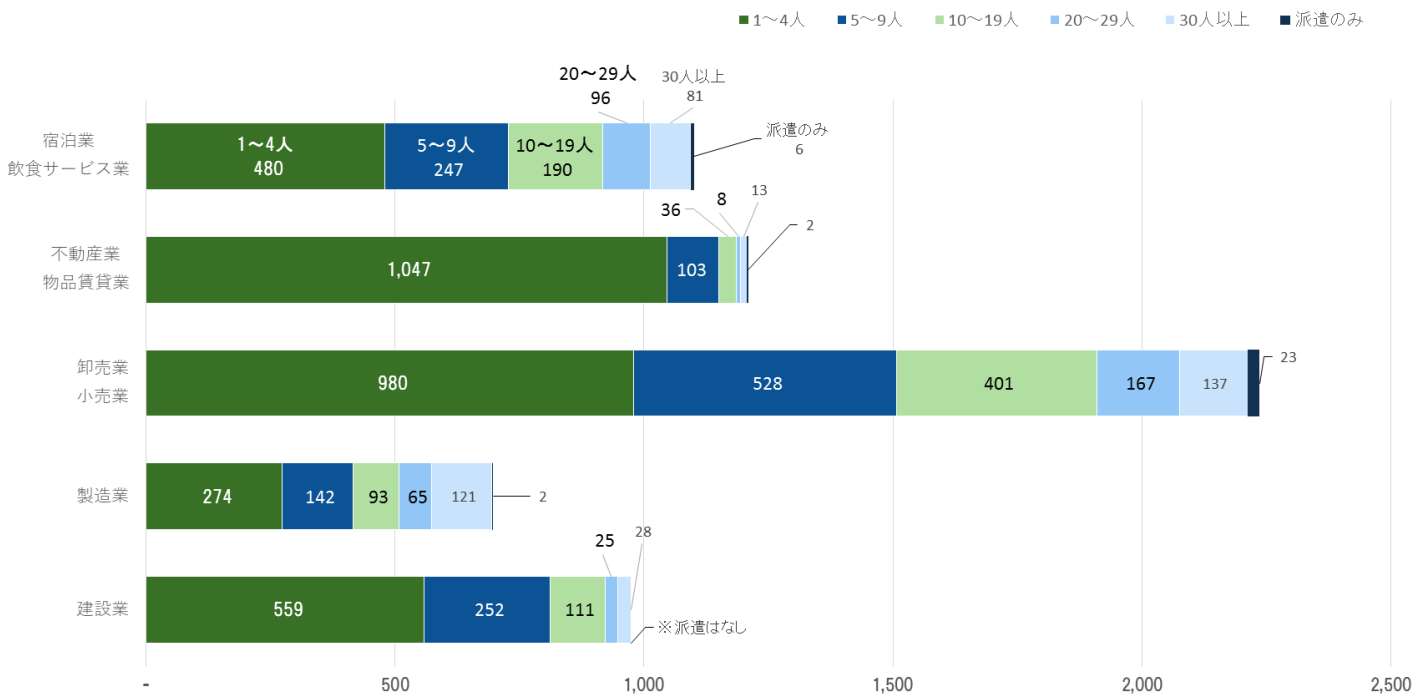
■従業者規模別事業所数(32)



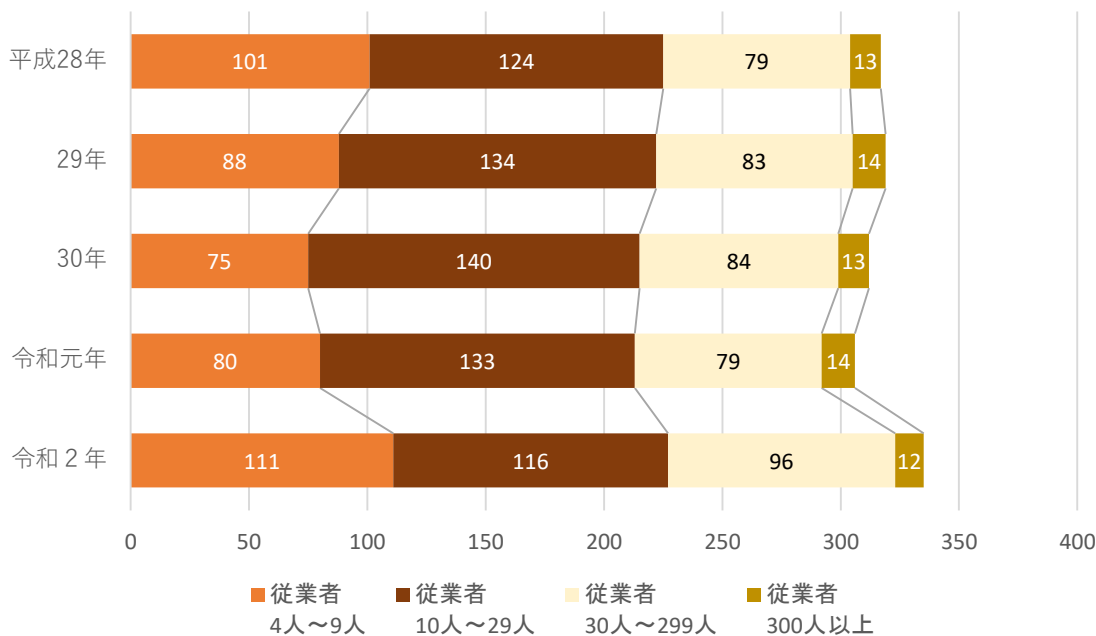
■産業大分類別事業所数(平成28年6月1日現在)(31)



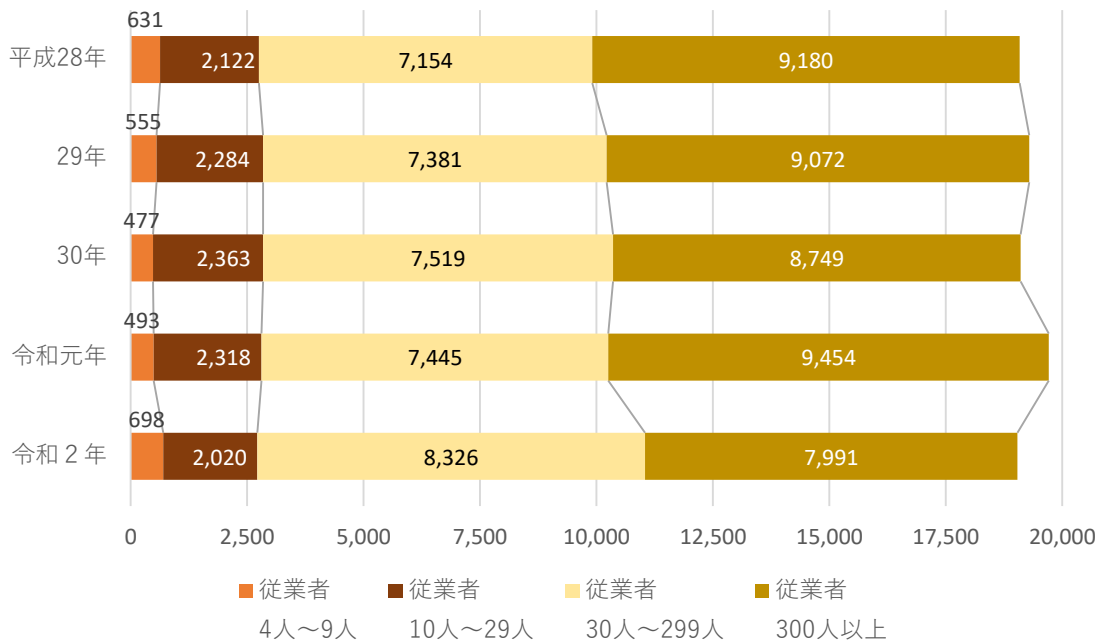
■産業大分類別従業員数規模別事業所数(市内シェア上位5分類)(32)



■従業員規模別事業所数の推移(35)



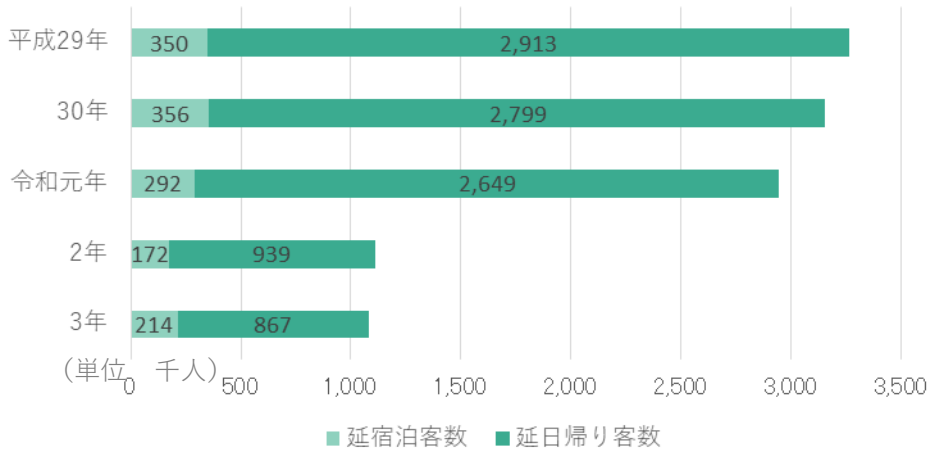
■従業員規模別従業員数の推移(36)



令和2年は企業数が増加しましたが従業員数は減少となりました。とくに、従業員300人未満の事業所では事業所数、従業員数ともに増加している一方、従業員300人以上の事業所ではともに減少となりました。

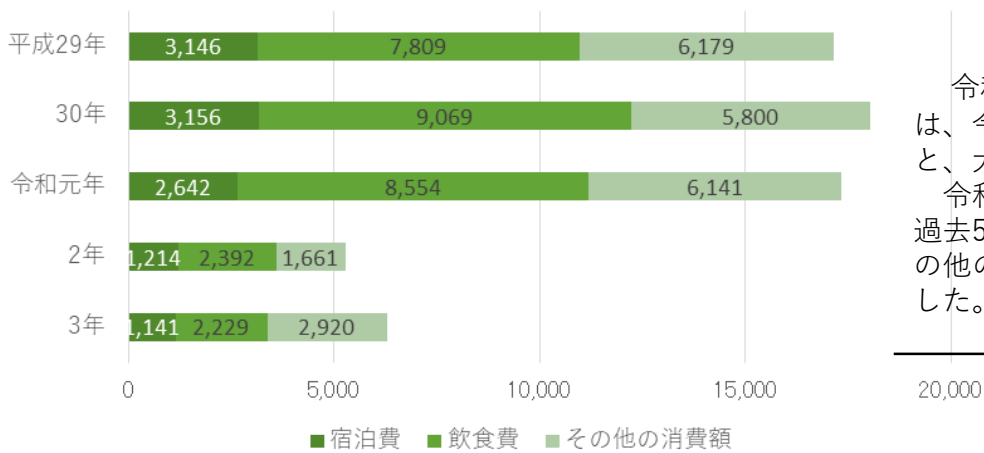
■観光客数及び消費額(53)

観光客数の推移



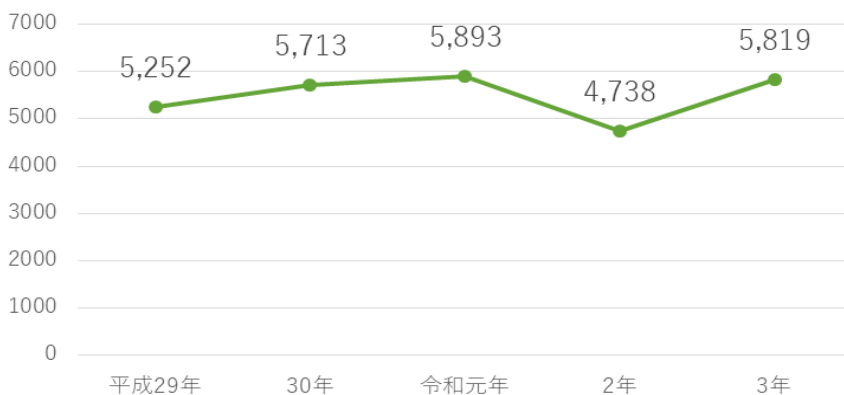
令和2.3年の観光客数は、令和元年以前と比較すると大幅に減少しています。

観光客消費額の推移



令和2.3年の年間消費額は、令和元年以前と比較すると、大幅に減少しています。令和3年は項目別の割合は過去5年間の傾向と異なりその他の消費額が最大となりました。

1人当たりの消費額

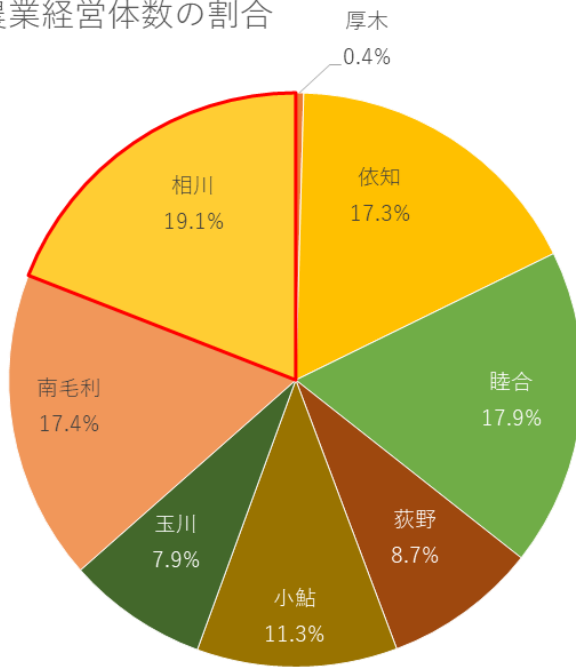


(観光客消費額 ÷ 観光客数)

6 農林業

■地区別農業経営体数(61)

地区別農業経営体数の割合



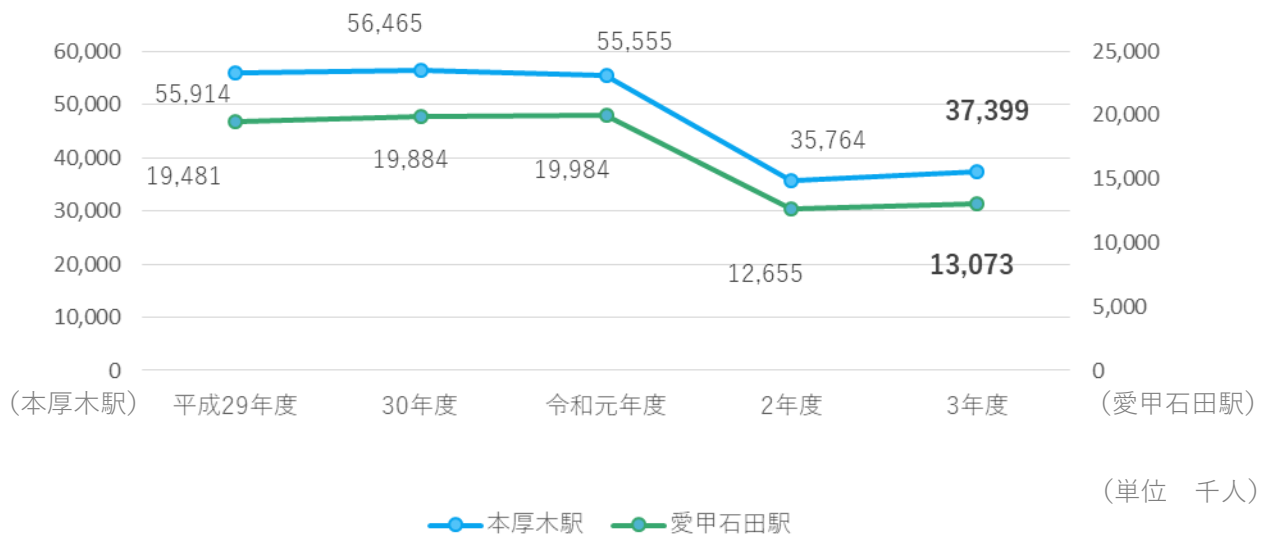
市内で農業経営体数が
最も多いのは相川地区です。

農業経営体：経営耕地面積が30a以上
事業の規模が各基準以上又は農作業の受託の事業を行う者

8 交通・通信

■市内鉄道利用状況の推移(本厚木駅・愛甲石田駅)(78)

各駅乗降者数の推移

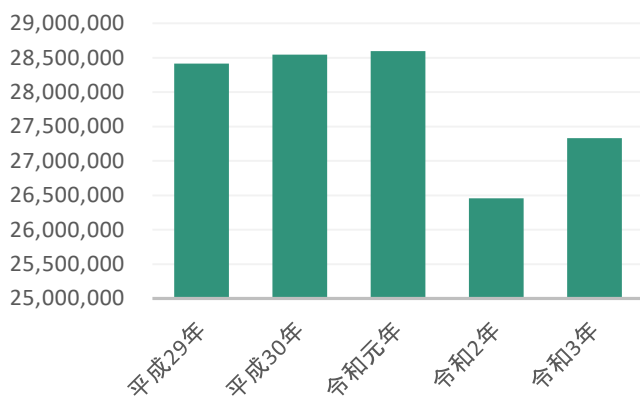


乗降者数は、令和元年度以前と比較して各駅ともに減少しています。

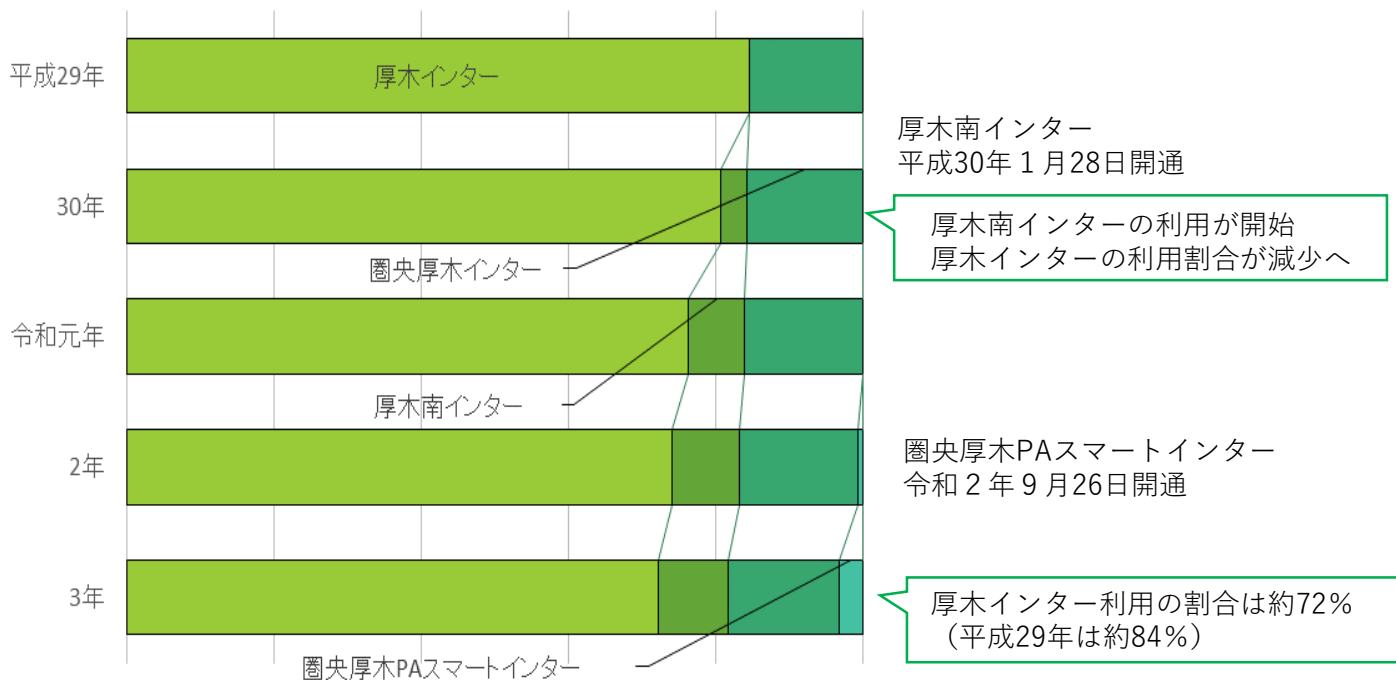
■高速道路インターチェンジ利用状況の推移(85)

令和3年は前年から利用台数が回復傾向にあります。過去5年間では2番目に低い数値となりました。

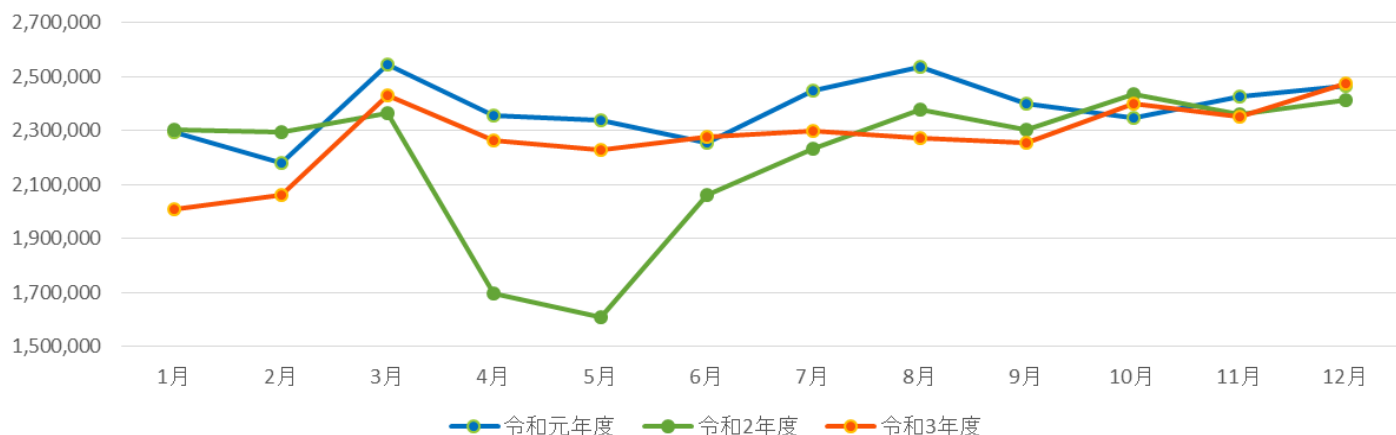
年度別利用状況



インター別利用割合推移



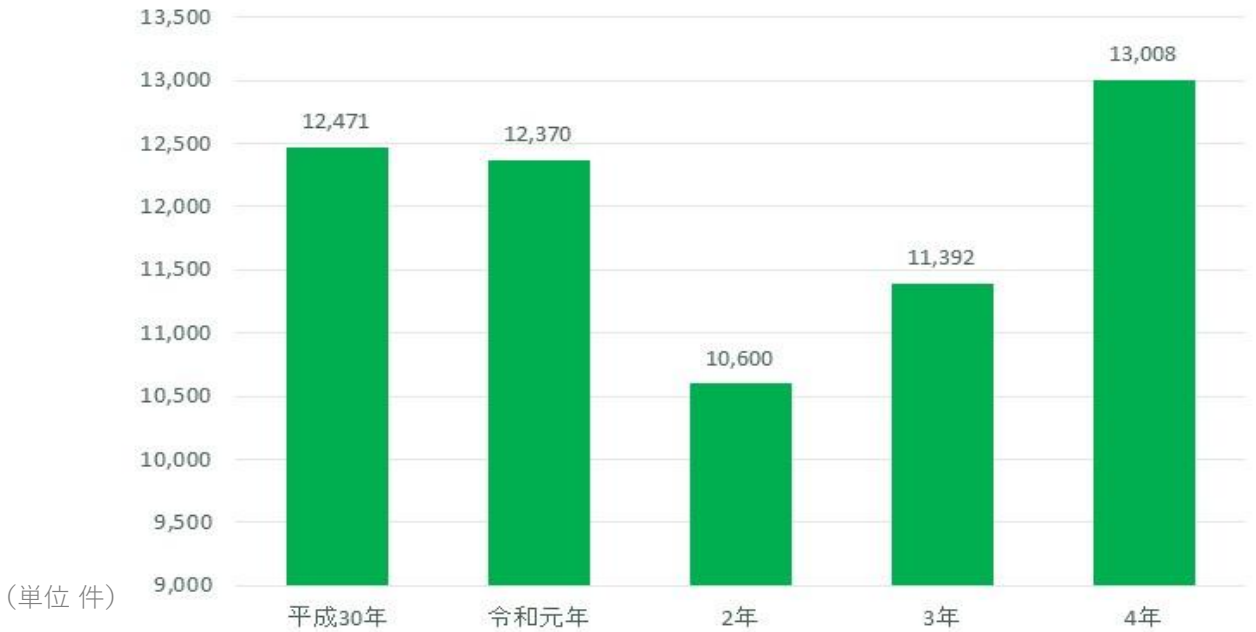
インターチェンジ月別利用状況(R1~3年)



令和3年は前年から利用台数が回復傾向にあり、月別推移も令和元年と同程度に回復しました。また、過去3年間の特徴として **3月** 及び **12月** の利用台数が多い傾向がありました。

■救急業務出動状況の推移(220)

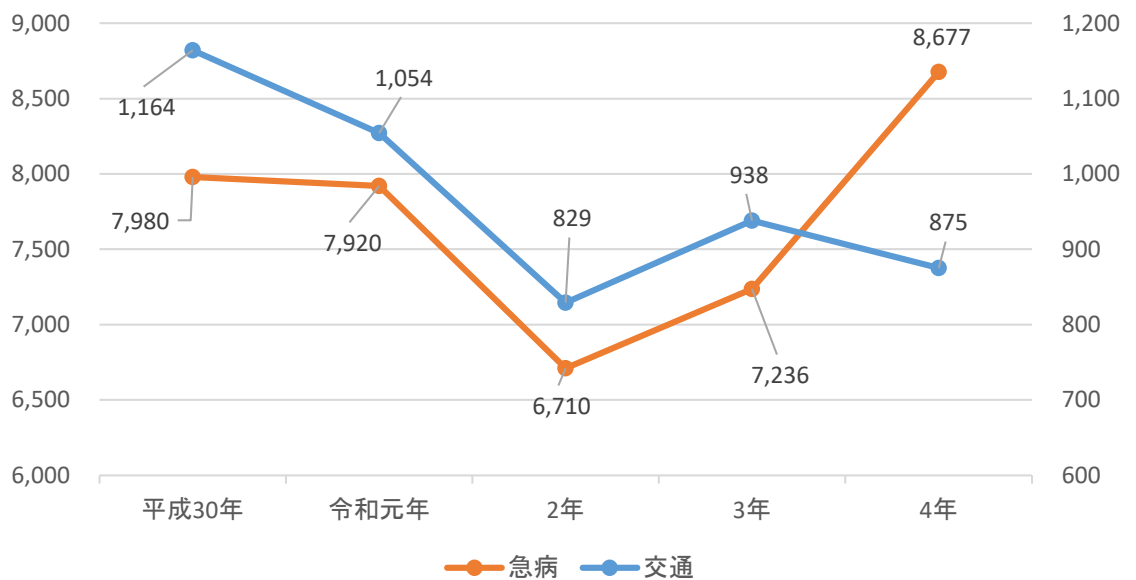
救急業務出動件数



令和4年の出動件数は、令和3年から14.2%増の13,008件となり、過去5年間で最大となりました。

令和4年の事故別出動件数は、前年から急病の件数が増加し、交通の件数は減少しました。

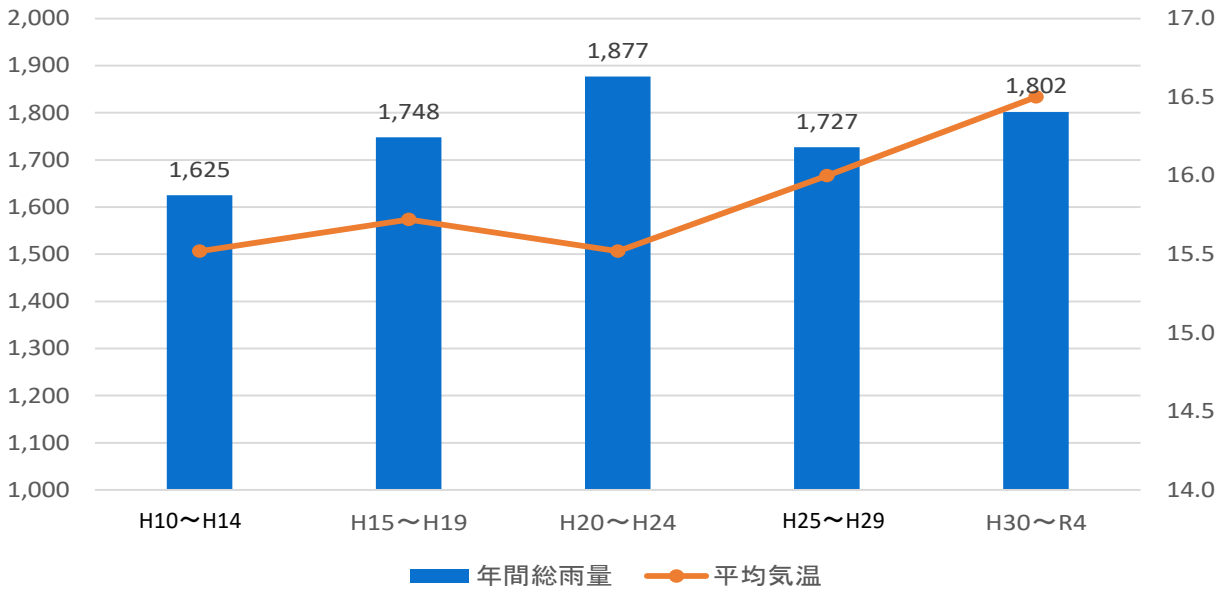
事故別救急業務出動状況



■気象(8)

平均気温と総雨量

※5年間毎の平均値を利用

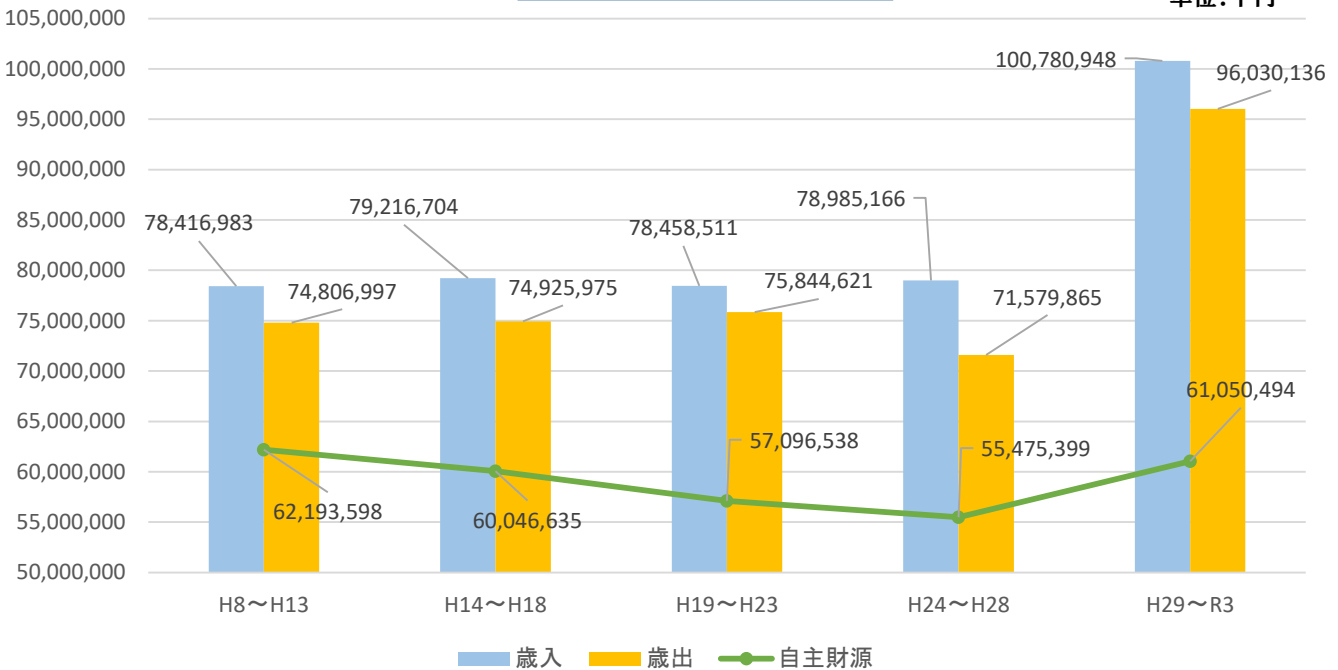


平均気温は20年前から**上昇傾向**にあります。
年間総雨量は年ごとに大きく差があり特段の傾向は見られませんでした。

■一般会計歳入歳出決算(92)

※5年間毎の平均値を利用

単位:千円

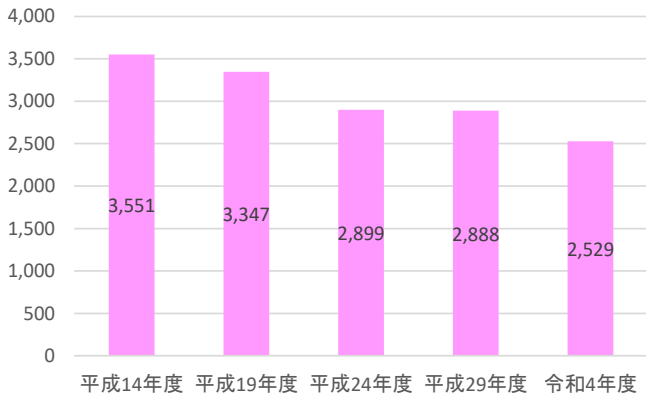


歳入・歳出ともにH29年~R3年の平均値が最大となった。
自主財源はしばらく減少傾向で推移していたものの、直近5年間の平均値では回復傾向にあります。

■ 幼稚園の幼児数(121)、小・中学校児童数(122・123)

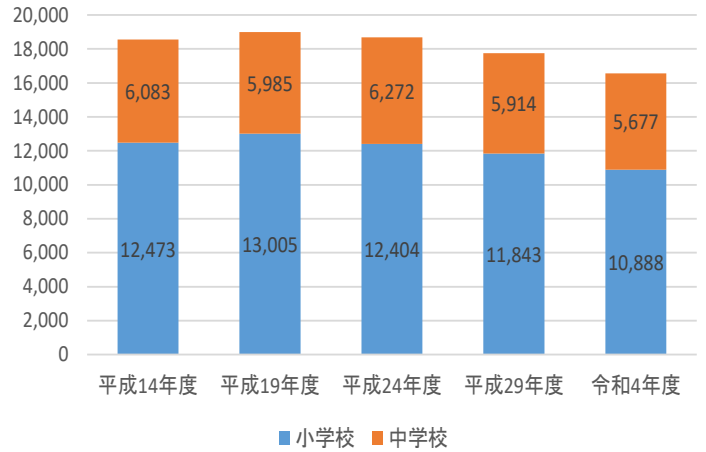
■ 幼稚園の幼児数

(単位 人)



■ 小中学校児童数推移

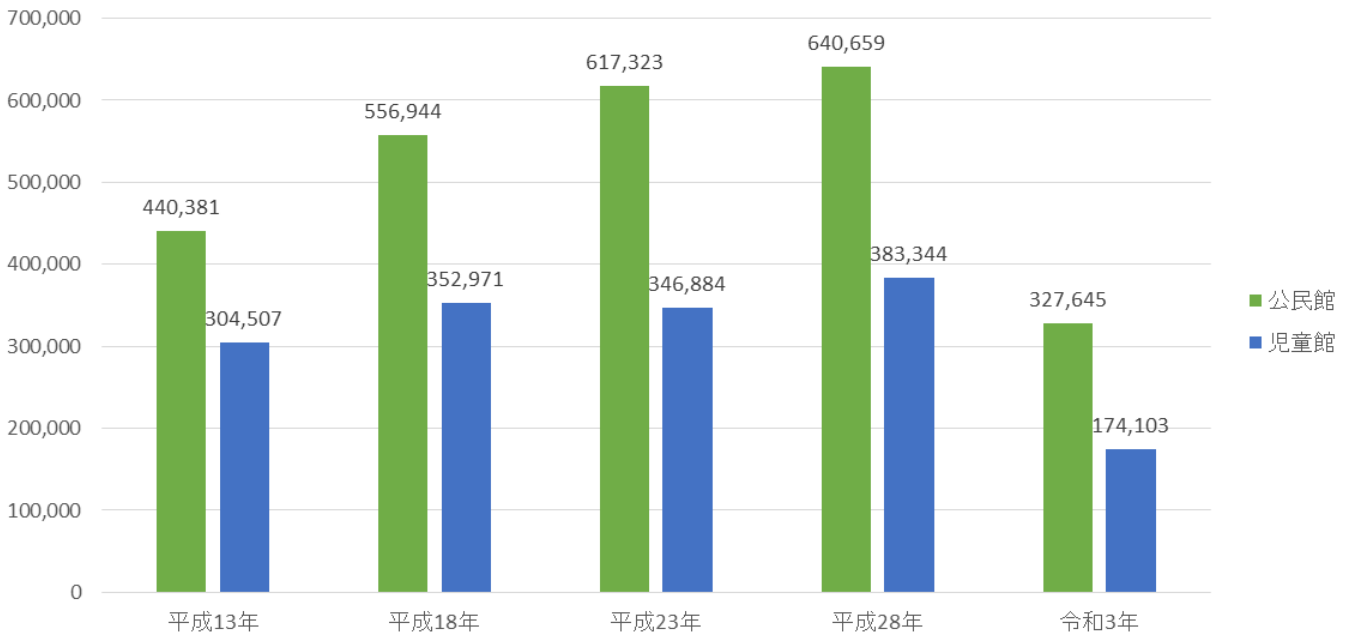
(単位 人)



幼稚園児・小中学校児童数のいずれも平成14年度から**減少傾向**にあります。
 また、両数の合計に対し幼児数が占める割合が平成14年度の**16.0%**に対し、令和4年度は**13.2%** (-3.8%)と減少しています。(少子化の傾向)

■ 公民館・児童館利用人数(149・154)

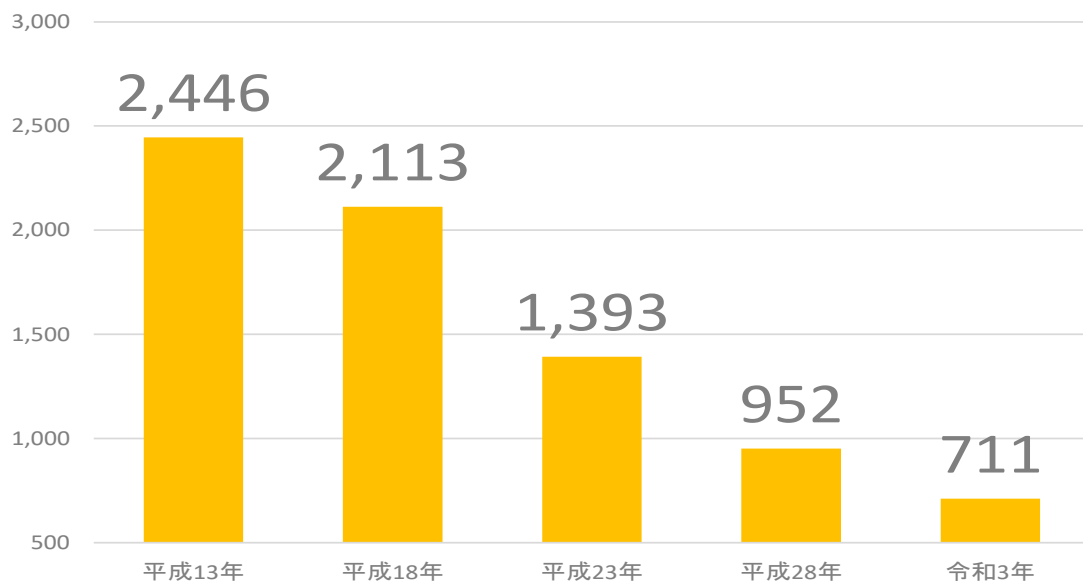
(単位 人)



公民館・児童館の利用人数は平成13年から平成28年まで**増加傾向**でしたが、令和3年は大きく減少しています。

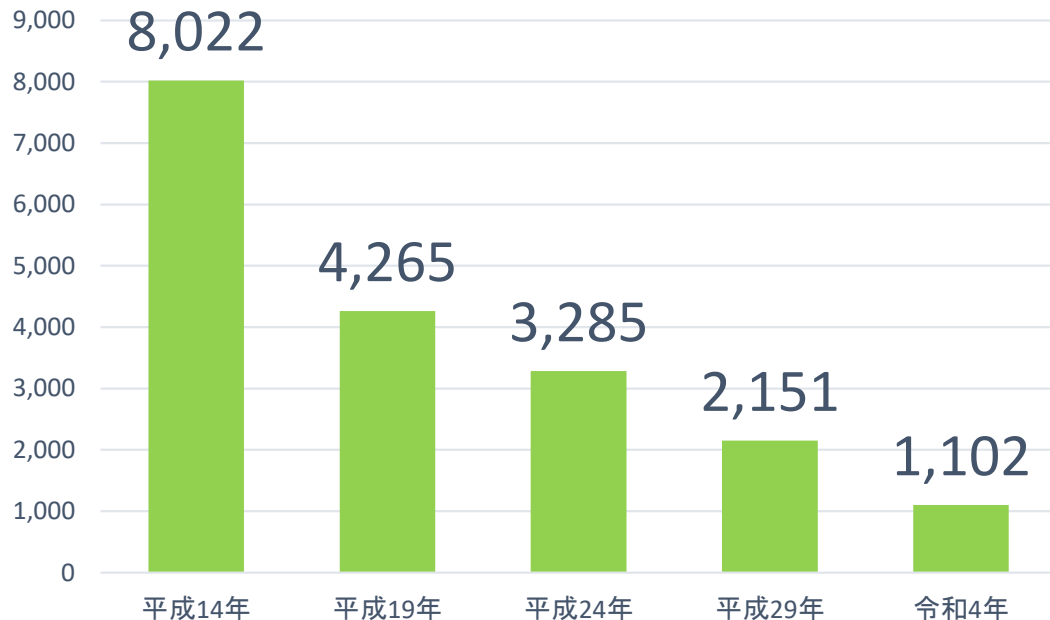
■交通事故発生件数(223)

(単位：件)



交通事故発生件数は減少傾向にあります。令和3年は平成13年と比較すると70.9%減少の711件となりました。

■刑法犯罪発生状況(224)



刑法犯罪発生状況は平成14年から減少傾向にあります。令和4年は平成14年と比較すると86.3%減少の1,102件となりました。

グラフで見る統計あつぎ

—令和4年版—

令和5年4月 発行

令和5年4月 編集

発 行 厚 木 市
編 集 厚 木 市 政 策 部 行 政 経 営 課
厚 木 市 中 町 3 丁 目 1 7 番 1 7 号
電 話 (046) 225-2180 (直通)
F A X (046) 225-3732
